

札幌駅前通と創成川通のこれから

多くの人が集まる札幌の都心。その重要な位置を占める二つの通りの将来が、今大きく注目されています。市の事業計画や市民議論の内容をご紹介しますながら、これからの課題を考えます。

（写真提供…札幌市写真ライブラリー）



地下鉄工事中の昭和44年。北1西3付近



大正7年ごろ。右上の建物は札幌初の百貨店、五番館（現西武）



昭和27年。北1西3から北側を望む。側道の様子が分かる



札幌駅前通

札幌駅前通が街の顔としての役目を任されるようになったのは、札幌停車場が誕生した明治13年。間もなく、アカシアが植えられると、この街を印象付ける風景として、多くの人に知られるようになります。

輸送手段の交代で、通りの姿も変化します。大正からは、馬車鉄道、そして市電が主役に。両側には樹木で区切られた側道がありましたが、自動車の増加に伴い、やがて姿を消します。ハルニレが植えられた現在の中央分離帯ができたのは、昭和46年の地下鉄開業のことです。

事業計画と市民議論

札幌駅前通地下歩行空間を整備します

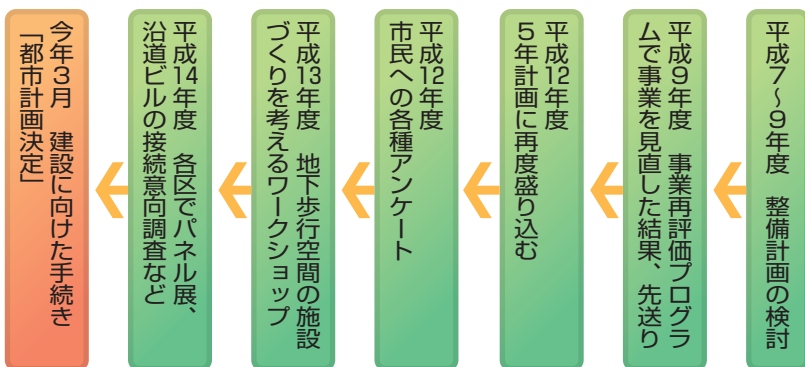
駅前通を取り巻く環境

- 大通・すすきの周辺地区、札幌駅周辺地区を結び、都心の一体的な発展を促す必要があります。
- 季節や天候に左右されず、誰もが安全・快適に移動できる空間が求められています。
- 沿道にある多くのビルが建て替えの時期にきています。

このような背景から、市では、大通駅と札幌駅を結ぶ地下歩行空間整備の検討を始めた。その後、市民意見の調査やワークショップを行い、整備の必要性や施設内容について検討。今年三月には、その必要性が認められ、「都市計画決定」が行われた。

大通、札幌駅を結ぶ「にぎわいの軸」

■地下歩行空間整備検討の歩み



※1 ワークショップ：共同で作業をしながら意見をまとめていく市民参加の手法
 ※2 都市計画決定：建設に先立ち、都市の将来計画として法の手続きで決定すること